研究実施計画書
研究テーマ
簡易スクリーニングツール等を用いた低栄養・フレイル・サルコペニア対策
～コロナ禍での現状把握を含めて～

1.研究の背景
フレイルとは、加齢に伴う様々な臓器機能変化や予備能力低下によって外的なストレスに対する脆弱性が亢進した状態を指し、日常生活機能障害、転倒、認知症をはじめとする健康機能障害を発症するリスクが高いとされている。フレイル高齢者は健常人と比較して要介護状態に至る危険性が高いだけではなく、生命予後が悪く、入院のリスクも高い。J-CHS基準を用いた日本人における調査報告ではフレイル高齢者の割合は 11.2%とされ、年代別でみると 65～74 歳で 4.0%、75～84 歳で 16.2%、85 歳以上で 34.0%とされている。フレイル高齢者へのアプローチを考える際にはフレイルサイクルの構成因子である低栄養やサルコペニアといった状態を同時に考える必要がある。地域高齢者に対し、病院での対応のみならず、地域薬剤師会を含めた多職種での対応が望まれているのが現状であるが、現在コロナ禍にて低栄養・フレイル・サルコペニアのリスクは増加していると考えられる。

2.研究の目的・意義
現在日本においてフレイル判定に最も一般的に使用されている J-CHS 基準、低栄養のスクリーニングには MNA-SF、サルコペニアには AWGS2019 で示された基準を用いることによりそれぞれの状態を同時に把握することができればその意義は大きい。今回、三豊総合病院薬剤部と地域薬剤師会が共同で作成したスクリーニングシート等を活用し、地域イベントにて地域高齢者に対し、「低栄養・フレイル・サルコペニア」の指標となる項目について現状調査を行う。

3.研究デザインの種類
後ろ向き研究

4.研究期間
治験審査委員会承認日～2022 年 3 月 31 日まで

5.研究方法
対象は 2021 年 12 月に香川県観音寺市で開催された地域イベント（健康まつり in ゆめタウン三豊）に参加した地域住民のうち、各種身体計測（体組成・下腿周囲長・握力を測定し、指輪っかテスト）および MNA®-SF、簡易フレイルインデックス、AWGS2019 を一部改変し作成した評価表（以下、評価表）およびコロナフレイルチェック表を用いた状態評価を

すべて測定できた 65 歳以上の地域住民を対象とした。（対象者 44 名）。各調査項目の群間（男女別、年齢別）比較には Mann-whitneyU 検定、χ^2検定を用いた。

6.個人情報の保護

情報は全て連結不可能匿名化して収集する。

7.研究資金と利益相反

地域イベントでのアンケート等によるスクリーニングでの情報収集のみで資金を要しない。本件に関して開示すべき利益相反はない。

8.同意の取得

後ろ向き研究であり、患者の同意は必ずしも必要でないが、対象患者に診療データを研究目的で使用すること、個人情報は守秘されることを口頭で説明し、アンケートへの返答をもって同意とする。

9.研究組織

主任研究者：近藤　宏樹　三豊総合病院　薬剤部

連絡先：香川県観音寺市豊浜町姫浜 708　三豊総合病院薬剤部内　電話番号 0875-52-3366

分担研究者

所属:三豊総合病院　薬剤部　　職名:薬剤部長　　氏名:加地　努

所属:三豊総合病院　薬剤部　　職名:副薬剤部長　氏名:篠永　浩